

# 「今後の農業の在り方について」

京都府 大山崎町農業委員会 大山崎町地区連絡会議

## 1 農業委員会の体制と市町村行政との連携状況

|               |   |       |
|---------------|---|-------|
| ○ 農業委員        | : | 7人参加  |
| ○ 農地利用最適化推進委員 | : | 参加    |
| ○ 事務局職員       | : | 3人参加  |
| ○ 関係団体（名称のみ）  |   |       |
| ○ 市町村行政との連携状況 | : | 事務局兼任 |



## 2 地区の特徴、状況、課題

（地区の概要）本町は市街化が進み、耕地面積は約24.5haで、一部の竹林を除き、大部分が市街化区域内農地である。

（地区の課題）市街化が進み、担い手の高齢化に伴う農業従事者の減少。

## 3 委員による継続した話し合いの取組内容

- 基本的には毎月の総会后、委員で本町の農業振興の在り方や、今後の担い手などについて話し合いをしており、それを地区連絡協議会として位置付けている。
- 今年度も市街化区域内の農地転用が進んでおり、耕作面積は減少しているが、耕作者の把握と遊休農地の解消に取り組んでいく。
- 担い手の高齢化による相続問題等もあるので、農業委員から各農家へ相続登記の義務化の指導等をしていく。

## 4 成果（地域計画の実行に向けた取組内容）

- 農業委員を地区の農家代表とし、令和3年度下半期から話し合いがスタート。令和4年度末に京力農場プランを実質化した。
- 本町は農地の大半が市街化区域内にあるため、京力農場プランの更新や町として今後の農地や農業の在り方を示す計画を作成していく。

※事例候補（地区連絡会議の単位が望ましい）の選定や作成にあたっては、農業会議の現地推進役と相談してください